



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 オーウエル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7670 URL <https://www.owell.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川戸 康晴
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 山田 麻紀子 (TEL) 06-6473-0138
 配当支払開始予定日 一
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	50,632	△1.7	792	0.1	1,149	5.2	829	6.6
2025年3月期第3四半期	51,495	△3.4	792	△2.7	1,092	4.2	778	13.8

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,247百万円(△152.4%) 2025年3月期第3四半期 494百万円(△67.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
		円	銭
2026年3月期第3四半期	82.54	—	
2025年3月期第3四半期	76.03	—	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2026年3月期第3四半期	46,536		22,349		47.7	
2025年3月期	45,820		21,539		46.6	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 22,186百万円 2025年3月期 21,368百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 —	円 10.00	円 —	円 35.00	円 45.00
2026年3月期	—	10.00	—	30.00	40.00
2026年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%		
通期	71,000	2.3	1,250	0.8	1,500	△5.8	1,400	△21.3

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社 (社名) — 、除外 2社 (社名) 奥唯 (上海) 貿易有限公司、
UNI-ELECTRONICS PTE LTD.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期 3Q	10,500,000株	2025年3月期	10,500,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	439,678株	2025年3月期	455,516株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期 3Q	10,052,950株	2025年3月期 3Q	10,236,607株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有 (任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により緩やかな回復基調がみられたものの、米国の通商政策による自動車産業への影響や地政学的リスクの高まり等により、先行き不透明な状況にて推移しました。今後の国内外の景気動向においても、引き続き米国の通商政策の動向、ウクライナや中東地域をめぐる情勢や物価上昇、金融資本市場の変動等の影響が懸念されていることから、先行き不透明な状況が継続すると推測されます。

当社グループはこのような状況のもと、「商材提供」型から「ワンストップソリューション提供」型へと提供価値を革新すべく、コーティング関連事業においては、培ってきた塗膜形成力を核（コア）とした機能拡大を図り、我々の新たな提供価値の創造を推進してまいりました。エレクトロニクス関連事業においては、我々の発揮する機能を、さらに付与し、拡大することに取り組んでまいりました。また、これらの事業を展開する上で、社会的責任を果たしながら、持続的な発展と成長を遂げるために、人的資本を充実させ、保有・調達する資源を、適切かつ効率良く活用することに努めてまいりました。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は50,632百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は792百万円（前年同期比0.1%増）、経常利益は1,149百万円（前年同期比5.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は829百万円（前年同期比6.6%増）となりました。

コーティング関連事業では、主たるお客様である自動車メーカーの国内自動車生産台数や鉄鋼、建設機械等の生産が前第3四半期連結累計期間と比較して減少した影響により、減収減益となりました。

その結果、コーティング関連事業の売上高は35,347百万円（前年同期比1.7%減）、セグメント利益は1,572百万円（前年同期比7.3%減）となりました。

エレクトロニクス関連事業では、前第3四半期連結累計期間と比較してカーナビゲーション向けソフトウェアや車載用タッチパネルの販売が減少したこと等により、売上高は減少しましたが、車載向けセンサーやモーターコントローラの受注拡大等により、セグメント利益は増加しました。

その結果、エレクトロニクス関連事業の売上高は15,284百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益は577百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末の29,945百万円に比べ1,584百万円（5.3%）減少し、28,360百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が552百万円、電子記録債権が331百万円、棚卸資産が427百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末の15,874百万円に比べ2,300百万円（14.5%）増加し、18,175百万円となりました。その主な内訳は、投資有価証券が1,405百万円、出資金が1,009百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末の19,710百万円に比べ161百万円（0.8%）減少し、19,549百万円となりました。その主な内訳は、支払手形及び買掛金が359百万円、1年以内返済予定の長期借入金が300百万円それぞれ増加し、契約負債が619百万円、未払法人税等が365百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末の4,569百万円に比べ67百万円(1.5%)増加し、4,637百万円となりました。その主な内訳は、繰延税金負債が383百万円増加し、長期借入金が300百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末の21,539百万円に比べ810百万円(3.8%)増加し、22,349百万円となりました。その主な内訳は、利益剰余金が377百万円、その他有価証券評価差額金が621百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月12日に開示致しました「特別利益の計上（投資有価証券売却益）及び 2026年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載した連結業績予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,545	5,992
受取手形	520	341
売掛金	12,090	11,840
電子記録債権	4,034	3,702
棚卸資産	6,183	5,756
その他	573	727
貸倒引当金	△3	△1
流動資産合計	29,945	28,360
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,474	1,462
機械装置及び運搬具（純額）	160	146
工具、器具及び備品（純額）	56	86
土地	1,833	1,834
リース資産（純額）	103	68
有形固定資産合計	3,628	3,598
無形固定資産		
ソフトウエア	241	176
のれん	5	1
その他	47	40
無形固定資産合計	294	218
投資その他の資産		
投資有価証券	10,419	11,824
出資金	0	1,010
長期貸付金	47	36
退職給付に係る資産	966	995
繰延税金資産	151	140
その他	403	387
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	11,951	14,358
固定資産合計	15,874	18,175
資産合計	45,820	46,536

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,211	13,570
電子記録債務	1,697	1,946
短期借入金	2,109	2,236
1年内返済予定の長期借入金	50	350
未払法人税等	398	33
契約負債	701	81
賞与引当金	491	233
品質保証引当金	1	2
その他	1,049	1,094
流動負債合計	19,710	19,549
固定負債		
長期借入金	1,600	1,300
退職給付に係る負債	216	202
役員退職慰労引当金	72	78
繰延税金負債	2,560	2,944
資産除去債務	41	41
その他	79	69
固定負債合計	4,569	4,637
負債合計	24,280	24,186
純資産の部		
株主資本		
資本金	857	857
資本剰余金	773	776
利益剰余金	14,326	14,704
自己株式	△340	△328
株主資本合計	15,617	16,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,235	5,857
繰延ヘッジ損益	△13	△86
為替換算調整勘定	340	252
退職給付に係る調整累計額	189	153
その他の包括利益累計額合計	5,750	6,176
非支配株主持分	171	162
純資産合計	21,539	22,349
負債純資産合計	45,820	46,536

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	51,495	50,632
売上原価	44,886	44,004
売上総利益	6,608	6,627
販売費及び一般管理費	5,816	5,834
営業利益	792	792
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	224	412
持分法による投資利益	35	8
為替差益	43	—
その他	57	51
営業外収益合計	366	480
営業外費用		
支払利息	44	24
為替差損	—	72
貸倒引当金繰入額	—	0
支払手数料	—	5
その他	21	22
営業外費用合計	65	124
経常利益	1,092	1,149
特別利益		
子会社清算益	—	58
特別利益合計	—	58
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	1,092	1,207
法人税、住民税及び事業税	186	225
法人税等調整額	128	160
法人税等合計	314	386
四半期純利益	777	821
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	778	829

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	777	821
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△241	621
繰延ヘッジ損益	33	△73
為替換算調整勘定	△36	△96
退職給付に係る調整額	△39	△35
持分法適用会社に対する持分相当額	0	8
その他の包括利益合計	△283	425
四半期包括利益	494	1,247
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	490	1,255
非支配株主に係る四半期包括利益	3	△8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	247百万円	244百万円
のれんの償却額	4 ハ	4 ハ

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	コーティング 関連事業	エレクトロニクス 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	35,958	15,536	51,495	—	51,495
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	798	802	△802	—
計	35,963	16,334	52,298	△802	51,495
セグメント利益	1,696	485	2,182	△1,390	792

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,390百万円は、主に各報告セグメントに配分していない会社の本社部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「塗料関連事業」から「コーティング関連事業」へ、「電気・電子部品事業」から「エレクトロニクス関連事業」へと変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	コーティング 関連事業	エレクトロニクス 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	35,347	15,284	50,632	—	50,632
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	742	760	△760	—
計	35,364	16,027	51,392	△760	50,632
セグメント利益	1,572	577	2,150	△1,358	792

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,358百万円は、主に各報告セグメントに配分していない会社の本社部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月12日

オーウエル株式会社
取締役会 御中

有限責任 あづさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 竹下晋平

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 江崎真護

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているオーウエル株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。